

支援機関双方の情報共有の必要性、早い段階での引継ぎの重要性が課題となったケース

圏域	印旛	センター名		就職するなら明朗塾			
氏名	M・T	居住形態		家族同居	GH	单身	その他
手帳種別及び等級	身体障害者手帳	1級（鎖肛）	年齢	33歳	性別	男	
成育歴および現在の生活状況	<p>鎖肛（直腸肛門奇形）が出生時に判明し、現在も治療を受けている。障害のため、1時間に1回の割合でトイレに行くことから、小学校6年生の時に虐めを受け、引きこもりがちになった。</p> <p>専門学校を卒業した後は、コンビニのアルバイトや家業（農業）を手伝っていた。26歳の時に身体障害者手帳を取得し、障害者雇用で求職活動を始める。平成26年4月からS事業所に通所を始め、27歳の時に特例子会社に就職が決まる。</p> <p>実家で暮らしているが、M・T曰く、父親の話を深夜まで聞かされることがあり、それが原因で体調を崩す（気分の落ち込み）ことがある。また、「そもそも～」というワードに反応し、それが原因で体調を崩すことがある。体調を崩し休職している期間は、千葉障害者職業センター及びS事業所でリワーク支援を受けていた。</p>						
就業前の訓練事業所	S事業所	サービスの種類	就労移行支援事業	期間	6か月		
就職先	G社			入社日	H26.10.1		
業務内容	事務補助（書面チェック等）						
就業先企業情報	<p>業種：サービス業</p> <p>従業員数：全体で1,600名（所属事業所31名）</p> <p>障害者雇用歴：身体・精神障害者（発達障害者を含む）の雇用実績がある。</p> <p>その他：特例子会社であるため、障害者への配慮は行き届いている。</p>						
就業前の課題	人間関係に疲れるとストレスを抱え込みやすく、休みがちになる。						
就労定着支援個別支援計画	別紙支援計画添付						
課題解消に向けた支援体制							

<p>障害者就業・生活支援センターと就労定着支援事業所間の連携経過</p>	<p>当初は利用していたS事業所の定着支援を受けていたが、担当者との相性が合わないことから、ナカポツセンターに移管することになった。 移管後はナカポツセンターが定着支援を行うが、リワーク支援が必要な場合はS事業所と連携していく。</p>
<p>具体的支援経過</p>	<p>R1.8 職業センター、S事業所、ナカポツセンターでケース会議を実施。S事業所がメインで就労定着支援を行い、ナカポツセンターがサブで支援（助言等）していくことになった。</p> <p>R2.7 企業訪問実施。所長より、休職、復職を繰り返しており、今後も同様な状況が続くと社内規定で雇用継続が難しくなると報告があった。その報告を受けて、S事業所の現担当に状況を確認した。</p> <p>R2.8 企業訪問実施。所長より、10：30～15：30の時短勤務にして復職させている。復職後は安定しているとの報告があった。</p> <p>R2.9 企業訪問実施。M・Tと面談を行ったところ、S事業所現担当者と相性が合わないとの話があった。</p> <p>R2.10 S事業所担当者とケース会議実施。今後の支援をナカポツセンターで支援を行うことになった。</p>
<p>現在の状況及び支援効果</p>	<p>時短勤務にしてから遅刻、欠勤はない。 1か月に1回の企業訪問を行い、M・Tと30分程の面談を行っている。M・Tとの関係性は良好で、M・Tとの面談、所長、担当者との振り返り面談の時間をしっかりと取っていただける。 また、家族に対しても体調を崩した際には、家庭で休養が取れるようにM・Tの状況を受け入れていただくよう依頼している。復職後、間もないため支援効果は図れないが、今後も同様の頻度で就労定着支援を行っていく。</p>
<p>障害者就業・生活支援センター側からの支援・連携上の課題</p>	<p>休職、復職を繰り返している中でS事業所から報告がなく、G社から相談があったため、早い段階からS事業所から報告が欲しかった。 ナカポツセンターとしてもS事業所に対して、連携していく姿勢を見せるべきであったと反省している。</p>
<p>就労定着支援事業所からの要望・意見</p>	<p>M・Tが自立を考えているため、生活面に関する相談や情報提供をして欲しい。 父親の話し相手をすることで疲れが溜まってしまうため、必要に応じて父親にもアプローチをして貰えると良い。</p>

個別支援計画書 No R - 3 0			承認	S D 審査	担当作成
			顧客氏名	M.T 様	1 / 1
作成者	サービス管理責任者 Y 氏				
対象期間	令和2年6月1日～令和3年5月31日	第1版	年 月 日	年 月 日	年 月 日
事業名	就労移行支援事業				

利用への顧客の意向		総合的な支援の方針			
学習指導とSST（社会生活技能）と社会貢献活動・感謝活動を取り入れた就労移行支援プログラム、リワーク支援を利用し、一般企業への復職を目指す。		社会人としてのビジネスマナーやコミュニケーションスキルなどの人間関係重視の学習指導を取り入れた就労移行支援プログラムにより「学ぶことの喜び」を体感し、思考力と集中力と持続力を養います。そして働き続けるために必要な社会適応能力（素直さ・プラス発想・学び好き）を向上し、一般企業への就職とその後の地域生活の安定を目指します。			
以上 ご本人					
優先順位	支援目標	支援内容			期間
	目標	支援内容	サービス提供機関		
復職	就職に関する情報をご本人、家族に提供する。	適宜：当法人作成・発行の「障害者のための就職情報シート」での情報提供 適宜：プレシャススクール 適宜：公共職業安定所（ハローワーク）主催の障害者雇用促進就職面接会への参加 年12回：企業見学 月2回：ハローワーク成田・千葉の求人情報を提供 上記等を企画し、就職に対する意識の向上及び実習や雇用に結び付けられるよう継続的で発展的な支援する。 ご本人が復職するために求められる課題を雇用先企業、かかりつけの主治医等に確認し、課題解決に必要な支援をする。	S事業所  公共職業安定所（ハローワーク）  障害者就業・生活支援センター  ジョブコーチ・企業支援員等	1年	
学習	就労移行支援プログラムにより、社会適応能力（素直さ・プラス発想・学び好き）を養う。	毎日：日常生活習慣の確立と就労移行支援プログラムを通じて、集中してトレーニングに取り組めるようにする。また報告・連絡・相談やオアシス等の挨拶など、個々のコミュニケーション能力の向上を図り、就職に必要な能力とその後の地域生活に必要な能力を伸ばせるよう支援をする。 適宜：パソコンスクールにより必要なスキルを養えるよう支援する。	S事業所  ジョブコーチ・企業支援員等	1年	
余暇	行事についての情報提供をご本人及びご家族に提供する。	月1～2回：余暇が充実して過ごせるように金銭面に配慮しながら、プレシャススクールや施設行事等の情報をご本人及びご家族に提供し、ご希望する行事等に参加できるよう支援する。	S事業所	1年	
	ご本人が職場実習・トライアル雇用・在宅就労等の事業所外サービス支援を実施した場合、活動先の訪問、緊急時の対応等の支援を行う。	ご本人が当事業所外サービス支援（職場実習・トライアル雇用・在宅就労等）を実施する際には、就労支援員がご本人の状況把握や他機関との調整などを実施するために活動先へ訪問し支援を実施する。	S事業所  障害者職業センター（ジョブコーチ）	1年	
	ご本人が3日間以上、連絡なく施設利用がなかった際には保護者と連絡を必ず取る。5日間以上続いた際にはご本人の状況を把握するため直接ご家庭に訪問する。	ご本人の心身の状況を把握するため、連絡なく施設利用がない状態が続いた際には、保護者との連携を図り、ご本人の様子を直接把握するためご家庭に訪問する。その際に、引き続き現行のサービスを利用するか、再アセスメントに基づく個別支援計画の見直し行なうか、相談支援事業所への斡旋をするか、いずれかの支援を行う。	S事業所	1年	

令和 年 月 日

ご署名